

【令和7年度高校生によるまちづくり提案発表会 発表内容】

● 13:00～14:40 ポスター発表



6校23組の生徒がポスターで発表し、生徒同士で意見交換。日頃接点のない生徒同士での交流ができました。また、「大学コンソーシアム八王子」が主催する「学生企画事業補助金 成果報告会」との合同開催により、7校10組の大学生・高専生も参加し、地域活動の成果を披露。高校生と大学生との貴重な交流機会にもなりました。さらに、参加校の探究学習に協力している企業・団体をはじめとした地域企業・団体の皆さんにもポスター発表を観覧・意見交換をしていただき、高校生が地域とのつながりを実感できる機会にもなりました。

テーマの種類	番号	学校名	発表者・グループ名	テーマ名
・多世代 ・防災 ・地域活性	1	八王子東高校	グループ	★目指せ！！世代をつなぐ共生シティ★
	2	八王子東高校	グループ	子育てしやすい街へ～地域で支える、子供たち～
	3	八王子東高校	グループ	地域の人がもっと参加できるまち
	4	八王子東高校	グループ	災害時における人的被害の軽減
・環境 ・インフラ ・まちづくり	5	翔陽高校	グループ	地域の高校生が様々なアイデアを使い「働きやすい中小企業」の魅力を広げ、人手不足や重労働を減らすためにはどうしたらよいか。
	6	八王子北高校	個人	外来生物から生態系を守るには
	7	八王子北高校	個人	人口減少社会において、八王子の不動産市場に未来はあるのか
	8	八王子北高校	個人	八王子の自然との共存
	9	八王子北高校	個人	八王子市で風力発電ができるか
	10	八王子実践高校	グループ	不法投棄ゼロへ！ 八王子『クリーン・パトロール』大作戦
	11	八王子東高校	グループ	石川町の買い物不便について
	12	南多摩中等教育学校	個人	八王子市中心市街地の回遊性を高めるにはどうすればよいか
	13	南多摩中等教育学校	個人	八王子駅の混雑を解消するためにはどのようにすればいいだろうか
	14	南多摩中等教育学校	個人	八王子駅前の商業施設を、若者向けにより魅力的にするにはどうすればよいか

テーマの種類	番号	学校名	発表者・グループ名	テーマ名
・食 ・文化 ・観光 ・健康	15	翔陽高校	グループ	八王子市の伝統野菜や農産物を使った栄養バランスの良いメニューを食べてもらおうには。
	16	八王子北高校	個人	八王子に世界遺産ができるか
	17	八王子実践高校	個人	肺がんによる死亡者を減らすためには
	18	八王子実践高校	グループ	八王子市の救急救命医療をより発展させよう
	19	八王子東高校	グループ	八王子のグルメをもっと身近に
	20	八王子東高校	グループ	道の駅八王子滝山を中心とした八王子北部の観光
	21	富士森高校	観光2班	高尾山の現状から見えるもの
	22	富士森高校	福祉教育3班	「てくポ」を利用して健康になろう
	23	富士森高校	娯楽スポーツ8班	8人の神を探せ！！

テーマの種類		大学名	団体名	事業名
・多世代 ・防災 ・地域活性	A	山野美容芸術短期大学	Yamatan-Belle-Rose	エステダンスとセルフ美容で地域貢献
	B	山野美容芸術短期大学	Yamatan-Belle-Rose	ローズプロジェクト ローズ・マップで地域活性化
	C	法政大学	法政大学 佐野ゼミ	「伝える」を備える防災・減災風呂敷 ～情報格差ゼロを目指した風呂敷の挑戦～
	D	法政大学	水野雅男研究室	CAMP in Campus八王子市内同時開催
	E	創価大学	和足憲明ゼミ	加住中学校区における 「学生参加型」地域づくりの推進
・環境 ・インフラ ・まちづくり	F	ヤマザキ動物看護大学	Compoost	「糞」から作り上げる八王子の笑顔 ～犬の糞を通じて考える、地域と環境の未来～
	G	サレジオ工業高等専門学校	ビジュアルコミュニケーション研究室	八王子ミライ創造PJ
・食 ・文化 ・観光 ・健康	H	帝京大学	観光経営学特殊講義（2025桑都観光）	日本遺産「桑都物語」と「織物」を活かす、持続可能なまちづくり（第二期：展開期）～親子・学生との連携からみんなに広げる「桑都・八王子」の本物の魅力発信～
	I	中央大学	伊藤伸介ゼミ	江戸東京野菜商品開発
	J	創価大学	創価大学理工学部丸田ゼミ	八王子産酒米米粉を利用したオリジナル開発製品の八王子市での有効活用

● 14:50～16:50 口頭発表

■ 翔陽高等学校

「高齢者の特殊詐欺被害を

減らすためには？」

- ・直近3年の八王子市での特殊詐欺件数とその被害額を調べたところ、件数は横ばいで、被害額は手口や状況により変動していることが分かった。
- ・八王子市が特殊詐欺の対策として行っている取組は、「特殊詐欺の啓発を図るキャンペーン」や「犯罪不審者情報のメール配信」、「自動通話録音機を高齢者に無償貸出する」など、効果的な取組をしていることが分かった。
- ・このことから、特に高齢者をはじめとした市民に特殊詐欺や利用できる制度を知ってもらい、特殊詐欺を未然に防ぐことが重要と考えた。
- ・高齢者のLINEをはじめとしたSNS利用率は年々上昇していることから、メール配信だけでなく、LINEを用いた特殊詐欺の発生状況やその対策などを周知することを提案。
- ・高校生が高齢者を対象とした特殊詐欺の危険性や被害に遭った際の対処方法を紹介する説明会を実施することを提案。これにより、家庭内で特殊詐欺について話すきっかけになると考えた。



■ 八王子北高等学校

「八王子駅前に“共助 Hub”を！

～英語を学びながら共助を

実践する場を生み出すには～

- ・「都立高校生等の海外派遣研修」でヨルダンに訪問した際に、高熱を出してしまい、ホテルの方が車で病院に連れて行ってくれた。このような心遣いは、イスラム教に「助け合い (Zakat: ザカート)」という考えがあるからだと知った。
- ・八王子市は「国際学園都市」と呼ばれるが、八王子北高校で迎えた留学生は4か月という短い期間であったり、大学に通う留学生のほとんどは、キャンパス内のみの活動であることから、地域住民と留学生の交流機会が少なかったり、交流が短期的になってしまう課題があると感じた。
- ・このことから、アクセスがよく、八王子国際協会がある八王子オクトーレに「共助 Hub」という留学生と英会話以外にも、文化交流もできる場所を設置することを提案。
- ・「共助 Hub」では、留学生が主催する英会話教室や日本人大学生が留学生への生活サポートを実施するなど、日本人が留学生を助けるだけでなく、留学生から学び、助けをもらう仕組みとしたいと考えた。



■八王子実践高等学校

「高尾山における遭難者増加の

要因と安全に登山する為の提案」

- ・標高が高く、登山の難易度も高い富士山の遭難率よりも高尾山の遭難率がなぜ高いのか疑問を持った。
- ・高尾警察署、高尾山観光客案内所、八王子消防署に遭難対策として行っている取組についてインタビューをし、これらを基に「登山者が安全な道を理解していないこと」と「登山者の服装が軽装であること」に課題があると考えた。
- ・「登山者が安全な道を理解していないこと」の対策として、スタンプラリーを作ることを提案。
- ・設置場所をスタートとゴール地点はもちろん、判断や注意が必要な場所や観光スポットに設置することで、正規ルートの維持ができるかつ、観光が楽しめる考えた。
- ・スタンプとスタンプシートのデザインは、天狗や薬王院など高尾山の特徴あるものを使用したり、豆知識を入れることで高尾山に詳しくなれるものとしたと考えた。



■八王子東高等学校

「道の駅八王子滝山を中心とした

八王子北部の観光」

- ・国交省の道の駅施策では、道の駅に求められる3つの段階を挙げており、その3段階目の「道の駅が地域観光を盛り上げる拠点になること」が達成されると道の駅滝山はよりよくなると考えた。
- ・道の駅を拠点とした周辺の観光地の知名度を高めるために、シェアサイクルを設置し、自転車での周遊ができるようにすることを提案。
- ・モデルコースとして、村内美術館や東京富士美術館を巡る「美術館コース」、小宮公園の自然やバードウォッチングを楽しむ「小宮公園散策コース」、滝山城とそこへ向かう際の田園風景を楽しむ「滝山城コース」を作成。それぞれ移動時間が30分程度、所要時間が2時間程度のコース設定とした。
- ・道の駅の利用者にシェアサイクルを認知してもらい、気軽にモデルコースを楽しんでいただき、道の駅周辺の観光地を知ってもらえると、リピーターやサイクリングを目的とした観光客が集まり、八王子北部の観光地の活性化につながると考えた。



■富士森高等学校

「八王子の歴史と伝統の存続

～多摩織・はちはくの資料から 分かった事～

- ・八王子の特長を広めるためには、八王子の歴史や伝統を広め、存続させることが重要と考えた。しかし、高校生をはじめ、若い世代の人は地域の伝統や歴史に関心がなかったり、存在自体を知らないのではないかという課題を感じた。
- ・八王子の歴史と伝統のある多摩織について調べるために、澤井織物工場の社長へのインタビューと桑都日本遺産センター（はちはく）を見学した。
- ・調査の際に多くの方々にお世話になり、歴史や伝統が人と人をつなげてくれることを実感し、このような、歴史と伝統を通じて人が交流できる機会を創出できれば、八王子の歴史と伝統の相続ができると考えた。
- ・具体的には、高校に伝統工芸品の職人や伝統芸能の担い手の方を招いて講義をしたり、実際にそれらに触れる体験ができるとよいと考えた。そのため、高校がこのような講義や体験を依頼できる講師をまとめたサイト等の作成を提案。



■南多摩中等教育学校

「市民参加型ローカル

登山プロジェクト」

- ・高尾山は毎年 250～300 万人が訪れる観光地であるが、高尾ビジターセンターの方は、この観光客の多さにより、登山道の混雑や安全に対するリスク、自然環境への負荷などが生じていると話していた。
- ・「集中から分散へ」をテーマとした「ゆるハイク」というイベントの開催を提案。
- ・イベントの実施場所は、地元観光客を高尾山以外に分散できたり、参加者に八王子の魅力ある資源を知ってもらえるように、八王子名山や隠れ名山といった高尾山以外の山を活用する。
- ・地域の解説や参加者の交流をサポートする地域の語り部や学生ボランティアも運営に参加し、学びや多世代交流のある市民参加型のイベントとなるよう工夫をした。
- ・「ゆるハイク」の開催により、交流を通じた孤独解消や運動による健康促進、また高尾山以外の山について知ること、八王子の魅力が再発見できると考えた。



● 17:00～17:40 意見交換会



口頭発表終了後には、高校の代表生徒2～3名と地域企業・団体の方1名、市職員1名がグループとなって、意見交換会を実施しました。学校の枠を超えて、探究学習に携わった生徒同士が意見交換することができ、また普段交流する機会の少ない企業や市職員といった社会人とも意見交換し、生徒はもちろん社会人も学びが深まる貴重な場になりました。

自己紹介とともに、今回の探究テーマや探究の中で特に苦労した点を話しながらアイスブレイクをし、各自のポスター・口頭発表テーマから1つ選び、それが実現したらどのような未来になるか、実現するにはどんな課題があったり、自分自身がどのように関われるかなどをテーマとした意見交換をしました。

参加者からは、「他校の生徒と話すことでたくさんの学びとなることがあった」や「高校生の生の声を聞ける貴重な機会であり、高校生の持つパワーを感じた」といった声がありました。